

「命の重み」

宇野 裕

先般、新しい年を迎えたような気がしておりますが、早くもお正月から2ヵ月以上も過ぎてしまいました。新年にあたって今年は何を思いましたか？

私は83歳になります。この頃つくづく思いますのは、歳をとると孤独になり、寂しくなり、^{ひが}僻み根性が出てきます。我ながら浅ましい気持ちになります。時々ふっと、自分の歩んできた道がこれで良かったのかと思いつくことがあります。しかし昔が帰ってくるわけではありません。むしろこれからどう生きるかが問題です。

世の中を見ますと、一番の関心事は、ほどほどのお金があって健康な生活を送りたいという事だと思います。その通りです。しかし、それだけあれば満足でしょうか。お金と健康という目的のためにのみ夢中になっていて、何かを忘れているのではないのでしょうか。健康と称してサプリメントに夢中になり、却って健康を害してしまうことは無いのでしょうか。お金が儲かると言っても変な投資に引っ掛かってしまうことはないのでしょうか。また、オレオレ詐欺の問題が報道機関を賑わしております。分かっているけど引っ掛かってしまう。これが人間の愚かさではないのでしょうか。

しかし、考えてみますとこの世の中は幾多のご縁に依って成り立っております。親のご縁に依って命をいただき、この世に生まれてきました。考えてみればとても不思議なことです。いただいた命の重みを考えてみる。そうすると、^{ひと}他者の命も自分の命も大切になってきます。そこに感謝の気持ちが湧いてきます。一番大事な事は、思いやりの心ではないのでしょうか？仏教の本質は慈悲の心です。人は決して孤独ではありません。自分がこの世に存在していることを喜んでくれる人が必ずおります。命の重みを深くかみ締めてみましょう。